

事業名：地域や関連機関と連携した防犯教育公開事業（学校安全総合支援事業）  
 モデル地域：勝浦市勝浦小学校近隣地区 拠点校：勝浦市立勝浦小学校

所轄教育委員会：勝浦市教育委員会

**1 モデル地域の現状及び安全上の課題**

○モデル地域名：勝浦市勝浦小学校近隣地区  
 ○学校数：小学校 2 校 中学校 1 校  
 ○モデル地域の安全上の課題  
 地域や保護者の協力により、登下校の見守りが行われているが、高齢化が進み、見守りやパトロールの新たな協力者が得られにくい状況となっている。さらに、地域の特性として住宅地に死角となりやすい場所が散在し、不審者等の情報も寄せられている。

**2 モデル地域の事業目標**

○児童が防犯教室や安全マップ作りを通して地域の防犯上の課題を理解するとともに、危険予測能力や回避能力を身に付け、自分の身を守るために適切な判断や行動ができるようにする。  
 ○学校・家庭・地域・関係機関がそれぞれの役割を明確にし、地域の特性に応じた学校安全体制を構築する。

**3 取組の概要**

**(1) 実施概要**

実施時期	計 画 事 項	参加者
6 月	○第 1 回実践委員会 ・取組の方向性を確認	実践委員
7 月	○第 2 回実践委員会 ・モデル地域の防犯教育の取組について共有した。	実践委員

8 月	○第 1 回防犯教室 ○第 1 回フィールドワーク ○第 3 回実践委員会 ・フィールドワークの効果的な方法と安全マップのまとめ方について検討した。	4 年生 4 年生 実践委員
夏季休業中	○第 2 回フィールドワーク ・各家庭において通学路の 1 人区間の確認をする。	4 年生 保護者
9 月	○第 4 回実践委員会 ・フィールドワークの具体的な内容の検討、公開授業に向けての準備計画の検討。	実践委員
10 月	○第 3 回フィールドワーク ○第 5 回実践委員会 ・作成した安全マップの検討と成果発表会の内容について検討した。	4 年生 実践委員
11 月	○第 4 回フィールドワーク ○公開研究会 ・4 年生公開授業	4 年生

## 4 具体的な取組

### (1) 安全教育の充実に関する取り組み

#### ア 安全教育の充実に関する取組

##### ①実践委員会における情報共有

6月、7月、8月、9月、10月、11月に実践委員会を開催。実践委員会の中で情報交換の時間を設け、各学校の実践等について共有を図った。

＜実践委員＞

日本こどもの安全教育総合研究所理事長、東上総教育事務所指導主事、勝浦市教育委員会、勝浦小学校学校評議委員、スクールガード、しおみパトロール隊隊長、モデル地域内安全主任、勝浦小学校PTA会長、PTA安全指導部長、勝浦小学校校長・教頭・教務主任・安全主任・研究主任

##### ②公開授業の開催

モデル地域内の拠点校を会場に、公開授業を実施。

日時：令和5年11月22日

テーマ：「みんなでつなぐ 勝浦安全マップをつくろう」

内容：通学路の「安全な場所」「危険な場所」等について工夫してまとめた安全マップをもとに、「危険な場所」をどのようにしたら「安全な場所」にしていけるのか、自分にできることは何かを発表を通して考えた。

参加者：実践委員、千葉県教育庁児童生徒安全課安全班指導主事、東上総教育事務所指導主事、勝浦市教育委員会、東上総管内教職員、保護者、地域の方  
参加人数：教職員54人、保護者・地域の方39人

##### ③講演会の開催

モデル地域内において、学校安全アドバイザーによる講演会を実施。

日時：令和5年11月22日

テーマ：「防犯教育の理論と実践」

内容：防犯における被害状況から、見守りボランティアの重要性やどのように地域と連携していったらよいか、安全マップを作成していく上での視点等について講話をいただいた。

参加者：公開授業時と同じ

参加人数：教職員54人、保護者・地域の方39人

##### ④発達段階に応じた防犯教室

拠点校を会場に行う体験学習

日時：令和5年7月7日

令和5年9月22日

令和5年10月26日

内容：1～4年生は、自分の身を守るためには4つのアイテムがあることを知り、実際に防犯ブザーを鳴らしたり、ランドセルを置いて逃げたりする体験をした。5・6年生は、ロールプレイングを通して、防犯性と道徳的な考えが対立する場面での判断や対応の仕方を学んだ。

参加者：モデル地域内の学校の教員、拠点校全児童

##### ⑤フィールドワークの実施

拠点校周辺の「危険な場所」「安全な場所」を確認。

日時：令和5年9月26日

令和5年10月24日

内容：拠点校周辺の通学路をグルー

プごとに歩き、「危険な場所」「安全な場所」について確認した。いつも見守りをしてくださっている方にインタビューし、どんな気持ちで見守りをしているのかを知ることができた。

参加者：拠点校 4 年生、保護者、地域住民、学校関係者

#### ⑥学校安全アドバイザーの活用

日本こどもの安全教育総合研究所

理事長 宮田 美恵子氏

派遣校数 1 校 派遣回数 5 回



【公開授業の様子】



【講演会の様子】

#### イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

①モデル地域内の学校を対象に学校における学校安全の取組調査を実施した。

#### ②勝浦市の成果指標

ア 「地域の安全マップ」や「危険箇所のマップ」の作成や見直しが行われている学校の割合は事業実施前 66.6% (2 校 / 3 校)、事

業実施後 66.6% (2 校 / 3 校) であり、小学校は作成しており、中学校は未作成であった。

イ 学校の安全管理（登下校の見守りや地域パトロール等）や緊急時（不審者発生時、大規模災害発止時等）の対応方法について、見直しが行われている学校の割合は、事業実施前、事業実施後ともに全ての学校で実施しており、100%であった。

#### (2) 組織的取組による安全管理の充実に 関する取組

##### ア 保護者との連携

- 学校便り・学年便りを通して学校での防犯への取組を周知した。
- 通学路で 1 人になってしまう箇所を家庭で確認する機会を設けたり、フィールドワークへの協力を依頼したりした。一緒に活動することで防犯教育への理解と協力を得ることができた。

##### イ 地域との連携

- いつも見守って下さっている方と一緒にフィールドワークをしたり、インタビューしたりするなどの交流を通して、児童は見守って下さる方の想いを知ることができた。そして、日頃からの活動に感謝の気持ちをもつとともに、自分にできることを考えることができた。

#### (3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

公開研究会では、勝浦市内小中学校から中核となる教職員を招き、防犯教育の取組、安全マップの作り方等これまで取り組んできたことを発表した。

#### (4) その他の取組について

##### ①各学年の取組

第1学年

テーマ：「不審者に会った時にはどうしたらよいか、かんがえよう」

内容：防犯ブザーの鳴らし方や止め方を一人一人が体験し、自分の身を守るためにはどうしたらよいかを考えた。

第2学年

テーマ：「留守番のお約束」

内容：家で一人で留守番中に電話が来た時や訪問者が来た時の対応の仕方考えた。

第3学年

テーマ：「わたしたちのまちの安全～『こども110番のいえ』の人はどんな思いなのだろう～」

内容：身近にある「こども110番のいえ」の方の思いを知り、自分にできることを考えた。

第5学年

テーマ：「防犯をよびかけるカルタを作ろう」

内容：防犯を呼びかけるカルタを作成し、校内に掲示した。

第6学年

テーマ：「みんなで高めよう 防犯意識」

内容：これまでに学んだ防犯の知識をいかして、防犯ポスターをグループごとに作成した。

##### ②防犯標語の掲示

全校で防犯標語を作成し、昇降口や階段に掲示した。



##### ③身を守るためのアイテムの掲示



## 5 取組の成果と課題

### 【成果】

- ・発達段階に応じた防犯教室や地域の安全マップ作りを通して、児童が防犯意識を高めることができた。不審者への具体的な対応を身に付けることができ、危険予測能力・回避能力を向上させることができた。
- ・身近な方との交流を通して、家庭・地域・関係機関等との関わりを深めることができた。日頃の見守りに感謝し、自分も地域の安全を守りたいという気持ちを育むことができた。

### 【課題】

- ・防犯に対する知識を習得できたことが、すぐに適切に行動できることにはつながらないので、今後も危険予測能力・回避能力を向上させる取組を継続して

いく必要がある。

- ・今回の取組で広げることができた地域や関係機関との連携をモデル地域内でどのように継続していくか検討が必要である。